

平成 30 年度 下水道への紙オムツ受入実現に向けた検討会
第 1 回 議事概要

日時：平成 30 年 10 月 30 日（火）15：30～17：30

場所：TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター 4 階 カンファレンスルーム 4K

議事概要

（社会ニーズ把握に向けた調査計画）

- 使用済み紙オムツ・パッド類を廃棄する際に困る点については、回答者が特に何に困っているのか優先順位が分かるように聞き方を工夫してはどうか。
- 下水道への受入によって解消できる課題を明らかにするため、紙オムツの保管の方法及び場所の実態について確認が必要ではないか。
- 紙オムツ・パッド類の収集頻度について、集合住宅においても常にごみ出しできる場合とごみの出し方の制約を受ける場合があるため、これらを考慮して設問を設計すると良い。
- 自治体のごみ出し場での収集頻度については「1 回」「2 回」「3 回以上」といった区分で確認すると良いのではないか。
- 紙オムツを処分する装置を利用する意向については、金額を直接聞く方法では必ずしも実態を反映しないケースがあることが指摘されているところ。「とても使ってみたい」「あまり使いたくない」など段階的に確認できる手法を取ってはどうか。

（ガイドラインの全体像と固形物分離タイプ（Aタイプ）の受入条件のイメージ）

- 紙オムツ処理装置について、下水道管理者が関与する部分はどこになるのか、装置の扱いについて整理が必要。
- 紙オムツ処理装置についても、デスポーザーのように装置の認定制度を検討するのか。何らかの性能の担保が必要。

以上